

# 職場における 交通安全指導

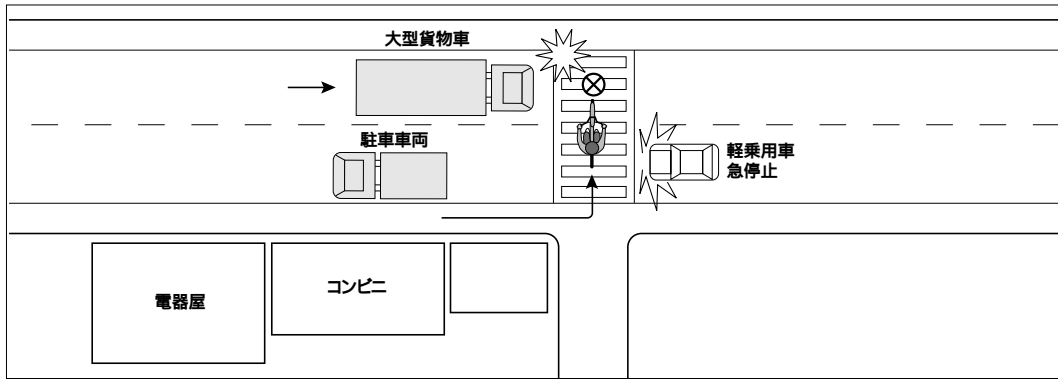
Part 57

事故事例に学ぶ

24

夜間事故

## 大型トラックが横断歩道を横断中の自転車に衝突



### 事故の概要

#### 発生状況

日 時：平成15年6月某日 午後8時30分頃

天 候：曇り

発生場所：横浜市内の県道

#### 道路状況

市街地を走る県道で片側1車線のほぼ直線部分で信号機のない横断歩道上

#### 事故の当事者

運転者A（大型トラック）：64歳、男性

被害者B（自転車）：71歳、男性

#### 被害状況

A：バンパー右前部小損

B：左大腿骨折、左上腕・鎖骨骨折、  
頭部打撲等（全治10か月）

### 事故状況

横浜市内の運送会社に勤めるAは普通トラックの運転も含め運転歴24年。過去に構内における物損事故と交差点における追突による軽微な人身事故を起こしたものの、以来20年間無事故であり、会社では模範のドライバーであった。

事故当日は県内外2か所の同系列の事業所に建設機械や工具類を搬送し、事故現場から約1Km離れた自社へ帰る途中であった。当時、交通は比較的閑散としており、会社もすぐ近くで空荷の気楽さもあり、リラックスした気分で時折隣の助手と

話しを交わしながら、夜間にかかわらず幾分スピードを出して走行していた。

Aが事故現場付近に差し掛かった時の道路前方の状況は、前方右側に電気店とコンビニが立ち並び、コンビニの入口付近の路上には箱型の普通トラックが駐車し、商品の荷降ろし作業中であった。

コンビニ等の照明で、周辺は夜間にもかかわらず道路までこうと明りが広がっていたが、駐車車両から先部分は一転して道路両サイドとも照明が乏しく、やや離れた横断歩道付近も一帯が暗い状態であった。

Aは駐車車両の後方、対向車線を進行してくる軽乗用車が右側にウインカーを出し、前方の駐車車両の右側に進路変更しようとしたが、突然、横断歩道の手前で急停止したのを認めた。

その軽乗用車は、進路変更にかかろうとしたが、コンビニで買い物済ませ出てきたBが無灯火の自転車に乗り、いきなり横断歩道を渡り始めたので、危険を感じ急停止したのであった。

Aは、軽乗用車が急停止したのを見たが、助手との話しの夢中で、さほど気に止めることもなく漫然と前方に目をやり進行し、Bが駐車車両の陰の暗がりから、黒づくめの服装で自転車に乗り横断歩道を渡っているのを、至近距離でライトに映し出された姿を見てやっと気付いた。慌てて急ブレーキを掛けたが間に合わず、Bの乗車する自転車に衝突、跳ね飛ばしてしまった。

Bは、Aの車両バンパー右側に激しく衝突し、その衝撃で路面に全身を強打し重傷を負った。

## 安全指導

### ベテランドライバー

ベテランの無事故ドライバーほど、重大事故を起こす可能性が高いというデータがあります。

トラック事故の大半は、30歳以上、運転経験10年以上のベテランドライバーが起こしており、なかでも大型トラックドライバーの重大事故が顕著であります。この事故にはベテランの過信ということが背景になかったでしょうか。

無事故運転が長く続いていることは、そろそろ「自分も事故を起こす頃ではないか」と自問自答するくらいの警戒心を常に持って、注意することが肝要ではないでしょうか。ともあれ、自信過剰こそ何より禁物です。

### 慣れた道路

交通事故は、いつもの通り慣れた会社周辺の道路で多く発生しています。ドライバーの緊張感の薄れが原因といえます。

Aの場合も、1日の仕事を終え一段落した安堵感と、会社周辺まで来て、交通状況にも熟知してただけに、リラックスした雰囲気の中で警戒心や注意力が薄れ、事故に至ったといえます。

安全運転の大原則は、交通状況にしっかり目配りし、いち早く危険を認知・判断することです。慣れた道路では事故が多いことを十分認識し、意識的に注意力を旺盛にして安全運転を実践するようにしましょう。

### 夜間の運転

夜間、当該事故現場のような住宅街の生活道路では、ドライバーの運転視界が闇に閉ざされ、ほとんどライトだけが頼りです。ですからスピードを控えることが何より肝要です。

当時Aは、下向きのライトで走行中であつたので、Bのように黒づくめの服装で無灯火の自転車の場合、注意深く見えていても、せいぜい20～30mぐらいに接近しないと発見できない状態でした。夜間は暗闇を横断する歩行者等の認知遅れや見落とし、見間違い等から重大事故となるケースが多いので、ドライバーは神経を集中し、周囲の動向を注意深く窺いながら、慎重な運転に心掛けることが必要です。

### 状況を読む

コンビニ横の駐車車両後方に横断歩道があつたのですから、車の陰から買い物客が行き交うことは十分予測できます。しかも横断歩道の手前で急停止した軽乗用車の異変を見ても、気に留めることなく漫然と徐行もせずに行進したこは、「状況の読み」があまりにも甘かったと言わざるを得ません。

プロのドライバーであれば、眼で見たものを確実に確かめることも不可欠なことです。当該事故のケースを考えれば、コンビニ、駐車車両の死角、暗がりの横断歩道等の状態を十分考慮に入れ、眼に見えない周囲の危険な状況を的確に読み取ることが、重要なことではなかったでしょうか。

最近、道路沿いにはコンビニが点在し、照明が道路を照らしており、その強い『明』が災いして、その先の暗闇を横断している歩行者や自転車の発見が遅れ、重大事故となるケースが少なくありません。『明』から『暗』の通過は眼が暗闇にすぐに順応できず、人や物を見落とす恐れがあります。特に加齢に伴い、その影響が顕著に現れてくるため慎重な運転が求められます。

### 高齢者の被害

高齢者は、身体機能の低下と共に警戒心が薄れ、安全への見極めが甘くなり、横断歩行中に交通事故の被害に遭うことが多いです。

Bの場合も、いつも通り慣れた自宅周辺の道路であつたことから油断し、自転車で道路を横断中、視線を足もとに落とし、接近してくる車に全く警戒することなく自宅へ向かっていました。

昨年、全国の交通事故による死者のうち、高齢者の死亡率は、下表の通り40.4%と高率を占めております。当県は28.8%と全国で最も低いのですが、首都圏から遠ざかるほど、高齢者の死亡率は高くなっています。中でも歩行中の死者数が顕著です。トラックドライバーはこの実態を念頭において、交差点等を横断中の高齢者には十分注意し、より慎重な運転に心掛けましょう。

### 高齢者事故

全国における高齢者(65歳以上)の死者数(H15)

全死者数	高齢者死者数	全死者に占める割合
7,702人	3,109人	40.4%

高齢者の死者数を昼夜別に見ると、昼間が1,795人(57.7%)、夜間が1,314人(42.3%)となっています。